

C112		メディア文化史	
英名科目名	History of Media Culture		
大学名	同志社女子大学		
連絡先	本学京田辺キャンパス開講 教務課 TEL : 0774-65-8413 FAX : 0774-65-8418		
担当教員	中村 信博 (学芸学部教授)		
開講期間	2021年04月09日(金)～2021年07月23日(金) 3講時 13時15分～14時45分(毎週金曜日) 開講 2021/07/23(金・祝) 休講 2021/04/30(金)		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	金曜日 3講時
単位数	2	履修年次	2年次以上
会場			
授業定員	200		
単位互換生定員	10	京カレッジ生定員	5
試験・評価方法	評価方法・評価基準： 定期試験 55% 定期試験の実施方法などは授業中に指示する予定。 「授業の概要」および「到達目標」として設定されている事項についての理解度を中心に評価する。 授業への参加度 45% 毎回の出席（講義視聴）とマナビーで回収するリフレクションへの積極的記入によって評価する。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	科44,000円（登録料24,000円・受講料20,000円）、聴8,000円		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	オンデマンド（動画配信）型授業の動画配信の日時は、必ずしも開講曜日・講時通りに配信されるとは限りませんのでご承知おきください。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
授業テーマ： 文字、テキスト、次世代メディア、そして人間の未来			
授業の概要： 従来のテキスト・メディアはデジタル化されることによって、多角的な再利用と加工とを可能にした。それは、現代社会における基礎的情報概念とコミュニケーションとに一大変革を迫ることになった。本講義においては、今日に至るメディア文化の歴史の変遷の過程をたどり、高度情報化社会の現状と将来を展望したい。代表的な学説史を紹介しながら、メディアの視点による文化史の再構築を試論的に考察する。あわせて情報化が社会にもたらした影響とメディア文化史が理解した人間と社会に潜む基本的な問題についても考察する。			
到達目標： メディアの発達が社会と歴史に与える影響を理解し、専門分野における高度な知識や、関連した他の多様な学問・芸術分野を横断する知識を養成する。 【知識・理解】幅広い知的関心をもって、人類の歩みをメディア文化史的視点から総合的に考察する能力を養う。 【関心・意欲・態度】歴史と文化における個別的にまた総合的に分析し理解したいとする幅広い知的関心を養う。 【表現・技能・能力】この分野の探求が単に過去の歴史事象に向けられることなく、次世代への展望に繋がることを理解し、最終的には今日の課題である情報とモラルの関係についても本質的な問題がどこにあるのかを思考できるようになる。			
授業方法： 【遠隔】オンデマンドによる講義を基本とする。毎回のリフレクションはマナビーによって回収する。講義はStreamによって配信する			

が、各回のURLはマナビーに掲示する。

講義スケジュール	
各回の授業内容：	
1. メディアとは何か - 課題と概要 - 2. 図像と文字の歴史 3. 音声の文化と文字の文化 4. 文字文化の影響 5. 口碑、碑文から写本へ 6. 写本と社会 7. ゲーテンベルクの衝撃 8. 印刷メディアと近代社会の誕生 9. メディアとしての言語 10. 翻訳言語と文化・社会 11. マス・メディアの誕生 12. 電子メディアの革新性 13. 現代メディアの課題 14. メディア文化による人類史とは 15. まとめ	
教科書	多岐にわたる内容であるので、教科書は指定しないが、参考文献などは教室において指示する。
参考書	